

今日の焦点

ツイッターは社会に大きな変革をもたらすか

Web上のコミュニケーションの手段としては、ブログとSNSが順調に発展を続けている。わが国の市場規模は、総務省の予測では、2010年度にはブログが183億円、SNSが717億円で拡大するとしている。ところが、これを追うように新しいサービス、“ツイッター”が昨年から急速に利用者を増やしている。

ツイッターは、2006年7月にウィリアムズ氏とストーン氏の二人が開発しサービスを開始した。ウィリアムズ氏は約10年前にブログサービス会社の「ブロガー」を立ち上げており、これは2003年にグーグルに買収された。結果的にウィリアムズ氏はグーグルの一員となったわけであるが、2006年に、同僚のストーン氏とともに退社して、ネットラジオ関連のサービスを始めた。しかし、この事業に飽きたらず、暇な時間に開発したのがこのツイッターである。

ツイッターが、昨年になって急速に普及が始まったのは、昨年の米大統領選で、オバマ氏が積極的に利用してからと言われている。ところが、昨年11月16日に中国での若者とのミーティングで、オバマ大統領は「これまで、ツイッターを全く使ったことがない」と発言し、大騒ぎとなった。おそらくゴーストライターのような形で行われているのであろうが、ツイッター推進の役割を果たしたことは間違いない。

ツイッターは1回の投稿が140文字までと限られているので、ツイートすなわちつぶやき、あるいはミニブログとも言われる。しかし、リンクアドレスのURL

を入力してつぶやけば、そのWeb上の写真や動画などあらゆるリソースに結びつき、多量の情報を伝えることができる。

ツイッターの基本は「フォローする・フォローされる」という関係で成り立っている。ツイートを発信する人は誰かにそのツイートがフォローされる（読まれる）ことを期待して発信する。一方、特定の人々のツイート情報を常に読みたい人は、「フォローする」と登録すると、その人が発信するツイートは自らのユーザーアカウントに常に自動的に送られてくる。フォローしている人の数を「フォロワー数」と言い、その人の影響力を示す指標となっている。

それでは、どのようなユーザーアカウントのフォロワー数が多いのであろうか。Web上に提供されているツイッターランキングによれば、2010年2月10日現在で、世界ランキングでは、米国の俳優、アシュトン・カッチャーがトップでフォロワー数は4,304,157、オバマ大統領は第4位で3,274,440となっている。わが国では、「もーりす」という大学生が552,645で1位を占め、2位が「ガチャピン」、元ライブドア社長堀江貴文氏が3位、鳩山首相は285,257で9位となっている。

そのほか、ツイッターには多くの機能がついており、それらの機能を駆使することによって、極めて多様な情報交換が行える。他人のツイートを自分のフォロワーにも読んでもらいたい時に自分のツイートに引用できるRT機能や、特定の話題に興味があるときには、その話題に適

するタグをツイートに埋め込むことによって、そのタグに興味がある人を容易にチェックすることができるハッシュタグ機能など、ツイッターは使えば使うほど奥の深いサービスとすることができる。

このように、ツイッターは、ブログやSNSなど、これまでのネット技術をさらに高度化し、より多くのユーザーが気軽に利用できるようにしたコミュニケーションツールであるといえる。ツイッターの利用者は急増しており、全世界のツイッターユーザーはすでに1億人を越えており、わが国でも、500万人を越えていると見られている。

ツイッターはPRやマーケティングに有効であるため、著名人や議員、企業などが利用している。また、いち早く世界中のニュースを知るメディアとしても利用されるようになり、テレビ局や新聞社もツイッターで情報収集はもちろん情報発信をもするようになっている。このように、ツイッターはマスメディアをも吸収する巨大なメディアへと変貌を遂げ、社会に大きな変革をもたらすのではないかと見る人も多い。ブログ、SNSを含めてこれらのコミュニケーションツールがどのように発展していくのか、大変興味深い。

なお、ツイッターのデータセンターは、カリフォルニア州サンノゼ市にあるNTTコミュニケーションズの米国現地法人、NTTアメリカが提供しており、ツイッターの開発言語は日本のまつもとゆきひろ氏が開発した「Ruby」である。このように、ツイッターのサービスを日本の技術が支えていることを付言しておきたい。